



東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年6月30日発行 第4号



「直さなきや」から「生かさなきや」に

岩内東小学校長 齊藤 信之

朝、真っ先に自分の鉢へと駆け寄る1年生と2年生。アサガオもトマトも、子どもたちからたっぷりのお水と愛情をもらい、すくすくと元気に育っています。日々、成長の階段を上る子どもたちの姿が重なります。

シドニー、アテネ、北京とオリンピックに3度も出場した男子400mハードルの日本記録保持者、為末大選手を覚えていらっしゃるでしょうか。子どもの頃から足が速かった為末さんは、小学2年生の時に地域の陸上クラブに入り本格的に陸上競技を始めます。学校では「もう少し落ち着きましょう」が通知票の決まり文句で、図工の時間には先生が説明している途中で作り始めたり、音楽の授業では勝手に歌い出したりする子だったそうです。先生からは、いつも「人の話を聞きましょう」「順序立ててやりましょう」と言われていたそうです。

そんな為末少年にある時、転機が訪れます。それは、陸上クラブに初めて行った時のことでした。いつものように、コーチが説明している間に走り出したり跳んだりしてしまい、「ちゃんと順番に並びましょう」「バトンを受け取ってから走りましょう」と、ここでも注意されてしまいます。ですが、練習後にコーチが母親に伝えた言葉は、こうでした。「この子の好奇心はすごいです！」「体がうずうずしちゃって待てないんですね」自分の特徴をこのように肯定的に捉えてもらったのは初めてのことで、「直さなきや」と思っていた点が「生かさなきや」に変わった瞬間だったといえます。

長所・短所は表と裏の関係です。プラスの面から見ると長所になり、マイナスの面から見ると短所となります。ですが、どうでしょう。どちらかという、どうしてもマイナスの面から見てしまうことが多いのでしょうか。「叶」という字が「くちへん」に「プラス」と書くように、自分の特徴を強みとして捉えることが、夢に近づく第一歩です。ですから、子どもたちには否定的な言葉ではなく、プラスの面から見た肯定的な言葉で伝えるべきなのだと思います。その繰り返しが、自分の特徴を生かすべき強みとして考えられる前向きな子を育てることになるのでしょう。

休校で遅れた学習を取り戻すことばかり目が行きがちですが、学校は勉強だけをする場所ではありません。集団生活や多様性、適応することを学び、友だちと遊び、心身ともに成長していく場所です。そのために大きな役割を果たしていた学校行事が、ことごとく中止や延期となり、友だちと一緒に達成感や喜びを分かち合うことができずにいます。今こそ、子どもたちの心に注意深く寄り添い、自暴自棄になることなく前向きに歩めるよう支えなければなりません。心のケアに関しては、スクールカウンセラーの協力を得ることも可能です。何かありましたら、いつでも遠慮なくご相談ください。